



2024年度 夏の「もずく基金」産地見学・生産者交流会 参加レポート 2024年8月20日～22日

報告
組合員活動グループ
西村弘命

「サンゴ礁再生事業支援」活動がスタートして今年で14年目を迎え、昨年度に引き続き、産地見学・生産者交流会が開催されました。6つの会員生協（中国5県・コープかがわ）から組合員の親子2名・2家族、各生協職員1名、コープCSネット職員2名の計32名が参加し、恩納村で学習・交流を通じて、サンゴ再生事業の大切さについて、理解を深める機会となりました。

8/20（火） もずく学習・サステナブルな恩納村の取り組みを知る

恩納村漁業・代表理事組合長 金城治樹さんのお話
（恩納村ふれあい体験学習センター）

生協でおなじみの井ゲタ竹内のもずくは、沖縄島の中央部西海岸に位置する、自然豊かな恩納村の漁場で生産されていました。恩納村漁協では、サンゴ礁漁場を利用した生物多様性と生産性を高めた、**作り育てる漁業**に力を入れていました。実は、**恩納村はもずく・ア～サ・海ぶどう養殖の発祥の地**とのこと！組合長の金城さんは「もずくの育つ美しい海を維持するために、サンゴの植え付け、オニヒトデ駆除、漁場の環境保全・再生に力を入れています。**これからもぜひ、恩納村のもずくを利用していただき、もずく基金の取り組みを継続していきたい。協力をお願いします！**」と話されました。



恩納村産太もずく
（井ゲタ竹内）



模型を使って赤土流出の様子を再現



恩納村農業環境コーディネーター 桐野 龍さんのお話

海を汚し、サンゴの生育に悪影響を及ぼす要因の一つに、赤土流出があります。亜熱帯の沖縄では年中気温が熱いため、腐植層が極めて薄く、開発工事による露出した土地や収穫後の畑の土壌は雨でたやすくバラバラになって流出してしまいます。恩納村では農地からの赤土流出を防ぐために、ベチバーの植え付けや、そのベチバーをしめ縄やバッグなどに商品化したり、収穫後の畑に草花を植えて、赤土流出を防いで、更にはちみつを生産する**ハニーコーラルプロジェクト**を実践しています。

恩納村は2018年に「サンゴの村宣言」を行い、行政・村民・事業者が一体となって自分たちの自然環境を守る取り組みを実践しています。桐野さんは「赤土対策という堅いイメージを変えるために、面白い話題を提供して、活動が広がっている。」と話されました。

←赤土露出の畑（右）、葉殻を敷き詰めた畑（左）に水を注いで赤土流出の状況を再現。左側は全く水が濁らない。

親子でサンゴの苗づくり体験

海水由来の成分で作った基台に、絵を書いてサンゴの苗をくくり付けます。3年かけて大きく育てて、海へ植えつけます。



海ぶどう養殖場の見学

夏の時期は約 30 日、冬場はおよそ 60 日で出荷するとのこと。恩納村漁協では 1994 年、この海ぶどうの陸上養殖に成功。この技術を6年間かけて確立したのが、同組合の銘苅宗和さんで、写真には映っていませんが、視察や交流会ではお世話になりました。



Honey&Coral (ハニー・コーラル) プロジェクト Honey はハチミツ、Coral は「サンゴ」という意味です。養蜂農家の方に、養蜂箱を見せていただき飼育の様子を伺いました。その後、近くの恩納村立うんな中学校前に密原木としてシャリンバイの苗を植樹しました。恩納村では、赤土防止対策で植えた草花や蜜原木を使ってハチミツを生産しています。



鳥取県生協から参加の小谷さん・井中さん親子

【ナビビーチにて交流会】
恩納村漁協・青年部の方とバーベキュー！



オリオンビールの空き缶で泡盛を飲み続ける生産者の皆さんに驚きました。子どもたちに指笛の指導や三線と歌の演奏もあり、楽しいひとときでした！



8/21 (水) 沖縄の海を体感！



恩納村漁協「前兼久魚港」もずく加工場見学

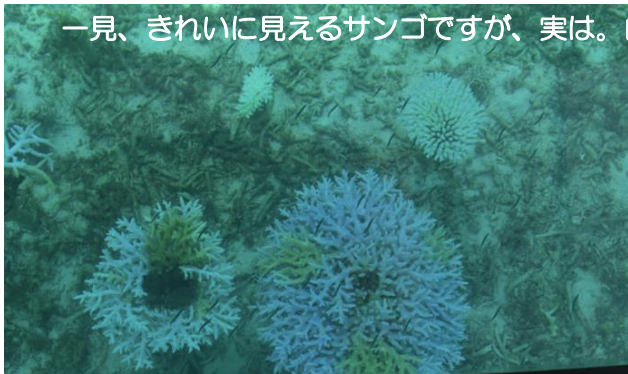
私たちは、収穫したもずくに含まれる、ゴミなどを取り除く選別作業を体験しました。1日 7.5 時間の作業で一斗缶×3 缶分の選別作業を行うとのこと。一人前になるのに3年かかるそうです。恩納村漁協では、もずくを養殖し、選別まで行って出荷することができる体制が整っています。

グラスボートに乗船

船底のガラスから、サンゴの生育状況を見学しました。一見きれいに見えるサンゴたちも、白化が進んで、死滅しているサンゴも数多く確認できました。組合長の金城さんは「**水温が 30 度以上続くと白化が始まり、栄養補給できず死滅してしまう。台風が来ないことで、海水温が下がらないことも白化の一因。早く、台風が来てほしい。**」と話されました。



一見、きれいに見えるサンゴですが、実は、白化が進み生育に大きな影響が出ています。



子どもたちはシュノーケリングで、沖縄の海を体感しました！



植え付けたサンゴの様子も確認できました。



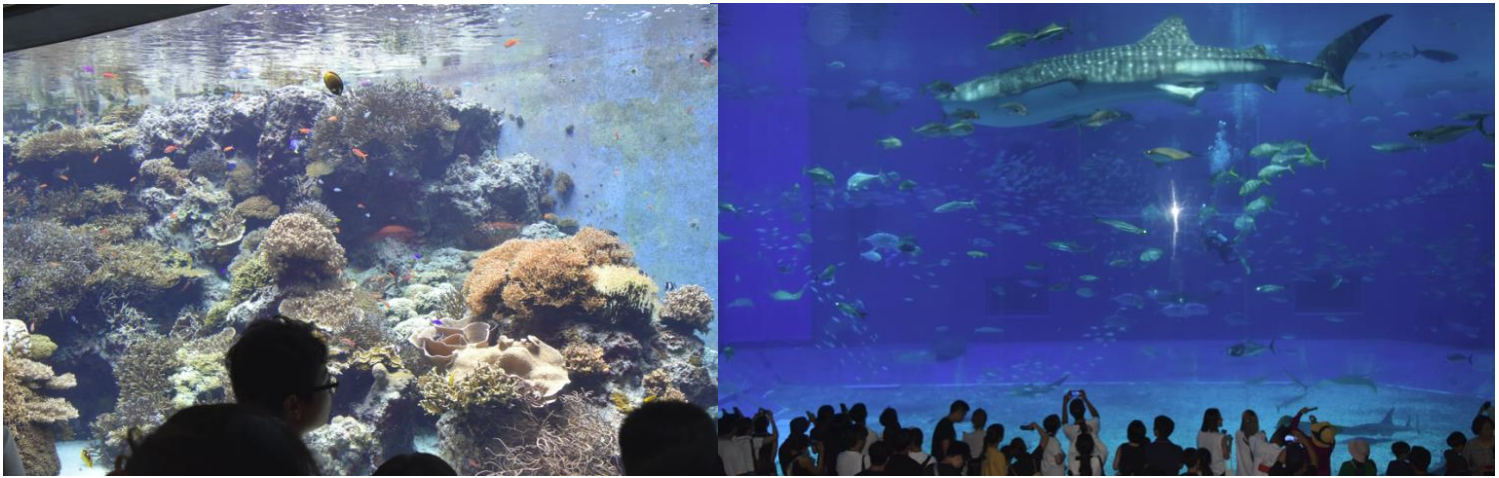
おんなの駅「なかゆくい市場(道の駅)」にてお買い物

恩納村を中心に 1400 名の農家さんが生産者登録をしています。スナックパイン、島ラッキョウなどの島の果物やお酒、お菓子など、みなさんお土産をしっかりと買っていただきました。



沖縄美ら海水族館

サンゴの海を再現。キレイ！！ 「黒潮の海」の展示(写真右)は、ギネスブックに登録されている大きな水槽です。ジンベエザメの大きさに、大人も子どもも釘付けに！！



夕食懇親会

料理を食べながら懇親会。各生協から、これまでの感想を発表しました。



井ゲタ竹内の竹内周常務からは、子どもたちへ

「もずくの取り組みは、いろいろなことにつながる取り組みです。今回学んだことは、大きくなったとき、きっと何かの役に立つときが来ると思う。いろいろ興味を持って勉強して行ってほしい。」と話されました。

8/22 (木) 沖縄戦の歴史を知る！

嘉数高台公園(普天間基地)

沖縄本島中部の宜野湾市にあり、沖縄戦で、米軍でも2~3万の死傷者を出した激戦地。日本軍が使用したトーチカや、沖縄戦の犠牲者を追悼する慰霊の塔が建てられていて、普天間飛行場を見渡すことができました。



街の真ん中にある普天間飛行場。オスプレイが見える。

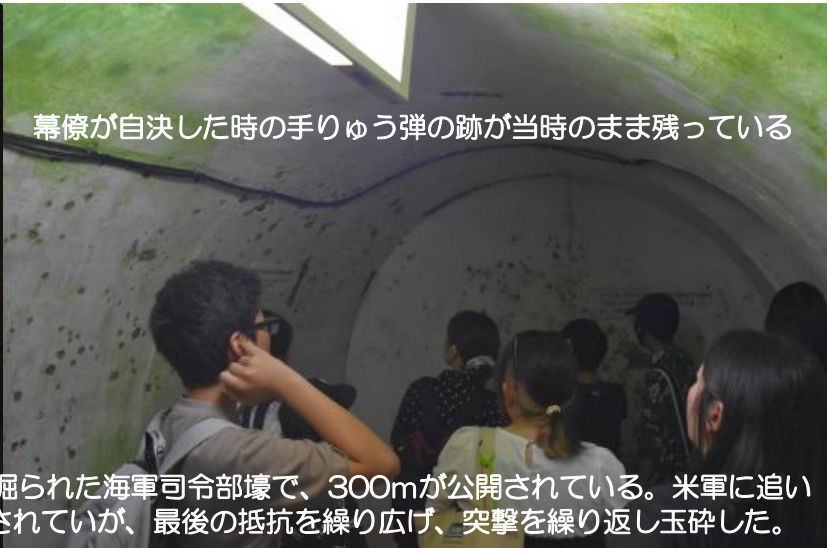


トーチカの中から。
ここから、迫りくる米軍を日本軍は迎え撃った。



陣地壕の中をのぞく

旧海軍司令部壕



幕僚が自決した時の手りゅう弾の跡が当時のまま残っている

太平洋戦争末期の沖縄戦で、1944年に掘られた海軍司令部壕で、300mが公開されている。米軍に追い詰められた海軍は当時4000人が収容されていたが、最後の抵抗を繰り広げ、突撃を繰り返し玉砕した。



現在も遺品の発掘作業が続いている。

昼食風景



子どもたち、組合員さん同士



お友達になりました！

もずく基金がスタートして今年で 14 年。日々何気なく食しているもずくですが、現地での学習を通じて、漁協・メーカー・行政・生協と連携した取り組みがあり、多くの方々の苦労やドラマ、想いが詰まっていることがわかりました。環境を生かし、つくり育てる漁業の取り組みは、持続可能性を強く感じ、ハニー・コーラルやベチパーの取り組みは、地域を巻き込み、環境を生かして利益を生み出し、継続していく、すごいアイデアだと感激しました。今回参加いただいた組合員さんや子どもたちも、もずくや海の環境についての見方が、随分変わったようです。この取り組みが着実に継続し、いつまでもおいしいもずくが組合員さんへお届けができるよう、商品利用と理解を広げていきたいと思えます。

短い時間ではありましたが、他生協の組合員さんご家族と職員・生産者・メーカーの皆さんと交流しながら、想いを共有できたことに、とても喜びを感じました。心より感謝いたします。

組合員活動グループ 西村

参加者の感想

井中さん親子



井中奏介さん（小学5年生）

僕が印象に残ったことはバナナボートと海ぶどうを食べたことです。初めて海ぶどうは食べたけど、すごくおいしかったです。

学習した事は、サンゴがいなくなると魚もいなくなるから自然を守っていきたいです。楽しい思い出ができてうれしかったです。

井中智子さん

小学5年生の息子と「もずく基金」産地見学・交流会に参加させていただきました。参加理由は①サンゴ礁再生支援事業を通して、私たちが暮らす地球環境や自然を守るための活動を学び体験したい。②単純に沖縄県恩納村の「もずく」が美味しい！どんな所か行ってみたい。でした。恩納村に到着すると、透き通ったきれいな海と砂浜が目に入ってきました。そして、出会うみなさんが親切で気持ちの良いおもてなしに感動しました。恩納村は、海と陸の村全体で、自然と澄んだ海を守るための活動をされています。初めは、なぜ農家さんが参加するの？と聞いていましたが、赤土流出防止や養蜂普及活動など持続可能な取り組みが必要だったからです。一般的に、沖縄のイメージと言ったら「海がきれい」だと思います。私は、それは当たり前のように感じていましたが違っていました。漁協組合をはじめたくさんの方々の努力、そしてプライドをかけ活動されている成果だと知ることができました。そして、その成果の中に美味しい「もずく」も含まれています。

今回、息子は初めての経験をたくさんさせていただきました。シュノーケリングでサンゴ礁を見たこと、海ぶどうが美味しかったこと、そして楽しい仲間ができたこと。これらは、きっと大きな財産になっていくと思います。親子で体験を通して感じたことは、今後の学びへと繋げていきます。鳥取県も、海と山に囲まれた自然豊かな場所です。この環境がいつまでも守られるように、小さなことでも自分ができることを考えていきたいです。また、今回、蜜原木を親子で植樹してきました。その苗が成長し、立派な木になった頃に、今度は家族で訪れることが私の次の目標です。息子も大きく成長しているといいですが（笑）3日間、とても有意義で楽しい産地見学と交流会でした。参加させていただき、ありがとうございました。

小谷さん親子



小谷律貴さん（小学6年生）

ぼくが一番いんしょうに残った事は、環境保全にむけた恩納村の取り組みです。赤土が流れ出し、海で育てている生き物に被害が出た映像はしょうげき的でした。しかし、赤土は焼き物などの原料にも使用される土であり決して悪い土ではないと知りました。そして、海も農地も同じ目的に向かっておたがいがよりよくつき合っていくことが大切なのだと気づきました

小谷綾子さん

夏の「もずく基金」産地見学・生産者交流会に親子で沖縄県恩納村を訪れる機会をいただきました。商品の購入でサンゴ礁再生事業に寄付できるという仕組みの「もずく基金」で、なぜ「もずく」でサンゴ礁なのか？関心を覚えました。

太陽に照らされて青く輝く恩納村の海は、何の課題もなく豊かそうに見えました。しかし、近年海の環境の変化により、サンゴが白化し、死んでしまうかもしれないと聞き、悲しくなりました。サンゴが元気だと海も元気になり、もずくが良く育つようです。恩納村では、海の元気バロメーターであるサンゴを守る取り組みに地域全体で協力し合っており取り組まれていることを知り、海の保全への慈しみを感しました。そんな事業の一部（サンゴ苗の植え付け、赤土流出防止対策等）に私たちも現地で参加できた時間は有意義なものでしたし、多くの方にも知ってほしいなと感じました。結果はすぐには出ないかもしれませんが、小さな努力を継続していくことで恩納村の海が豊かになれるのは、素敵なことだと思います。

恩納村の元気なサンゴ礁やもずく生産に携わる方々に、感謝の想いを巡らせながら・・・我が家でもずくを食べる機会が増えそうです。



2024年度 夏の「もずく基金」産地見学・生産者交流会 参加者

恩納村産 味付けもずく



味付け太もずく



味付け糸もずく

★一人前ずつの便利な個食パック

★味付けはまるやかなか三杯酢

★「もずく基金」対象商品です

「もずく基金」対象商品を1点利用
 するごとに、1~2円が基金に積み
 立てられ、もずくの産地、沖縄のサ
 ンゴ礁再生事業に役立てられます 🌊



CS開発商品 **べんりな利用登録に仲間入り!!**
恩納村産 味付太もずく

●できるだけシンプルに、家庭にあるような基本的な調味料で味付けしました。
 ●保存料や、保存性を高める品質向上剤などは使用しておりません。

だから、後味もすっきりで、調味液も最後まで飲み干すことができます。もずく酢です。

子どもでも食べられる味付!

太もずくは、ナガマツモ科のオキナクモスクをいい、太くて、中は空洞になっており、そこにヌメリがあり、シャキシャキの歯ごたえをお楽しみいただけます。鹿児島県(沖縄県)に分布しています。

登録番号 **4499** 蔵 21日 冷蔵

CS開発商品 井ゲタ竹内
 恩納村産
 味付太もずく
 50g×4

ハローコープ
 通常価格 **298円** → **268円**
 (税込321円) (税込289円)

利用登録価格

2023年度、鳥取県生協の**もずく基金実績は、対象商品74,850点の利用で143,725円**となっています。引き続き、基金への解と対象商品の利用をよろしくお願いたします。

利用登録で
ハローコープ通常価格から
とっても★お買い得★に
なりました!!